

平成24年1月20日（金）  
国土交通省関東地方整備局企画部

記者発表資料

ふるさと  
**平成23年度「手づくり郷土賞」(国土交通大臣表彰)に  
関東地方整備局管内で3件選定！**

昭和61年度に創設され、今年度で26回目の開催となる「手づくり郷土賞」(国土交通大臣表彰)では、今般、手づくり郷土賞選定委員会が開催され、16件(一般部門12件、大賞部門4件)が選定されました。  
このうち**関東地方整備局管内では、一般部門3件が選定されました。**なお、選定された案件の認定証授与式を以下のとおり行う予定です。各会場では取材が可能です。

受賞案件 : **災害復旧後の河川敷及び堤防を利用した地域活性化事業**  
所在地 : 栃木県那須郡那須町  
受賞団体 : 余笹川流域連携ネットワーク／栃木県  
認定証授与式 : 平成24年2月9日(木) 13:30～  
会場 : 栃木県那須郡那須町 ゆめぶらざ・那須 会議室2

受賞案件 : **野の川の再生「清流よ 永遠なれ」**  
所在地 : 東京都江戸川区  
受賞団体 : 一之江境川親水公園を愛する会／江戸川区  
認定証授与式 : 平成24年1月27日(金) 14:00～  
会場 : 東京都江戸川区 江戸川区役所 区長応接室

受賞案件 : **流域学習・地域防災拠点を目指す鶴見川駒岡河川敷**  
所在地 : 神奈川県横浜市  
受賞団体 : 特定非営利活動法人鶴見川流域ネットワークキング  
認定証授与式 : 平成24年1月29日(日) 午前  
会場 : 神奈川県横浜市鶴見区 駒岡地区センター

選定された好事例は、ホームページ等を通じて広く全国に紹介する予定です。

※ 本内容につきましては、国土交通本省においても本日付けで記者発表を行っております。  
なお、認定証授与式の日程等の詳細については、下記問い合わせ先にご確認ください。  
本省記者発表資料アドレス [http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo03\\_hh\\_000032.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo03_hh_000032.html)

記者クラブ		
竹芝記者クラブ	神奈川建設記者会	茨城県政記者クラブ
栃木県政記者クラブ	刀水クラブ	埼玉県政記者クラブ
千葉県政記者クラブ	東京都庁記者クラブ	神奈川県政記者クラブ
山梨県政記者クラブ	長野県庁会見場	長野市政記者クラブ・市政記者会

問い合わせ先		
関東地方整備局企画部	広域計画課 課長補佐	おおた ひろのり 太田 浩徳 (内線3213)
	同上 専門員	おかむね まさかず 岡宗 正和 (内線3223)
TEL: 048-601-3151 (代表)		048-600-1330 (直通)

# 平成23年度 手づくり郷土賞

## 目的

全国各地において、その地域固有の自然や歴史、伝統、文化や地場産業等を貴重な資源として再認識し積極的に活用した、魅力ある地域づくりの成功例が多く見受けられます。

このような地域の魅力や個性を創出している、良質な社会資本及びそれと関わりを持つ優れた地域活動を一体の成果として発掘・評価し、「手づくり郷土賞」として表彰することにより、好事例を広く全国に紹介し、个性的で魅力ある郷土づくりに向けた取組が進むことを目指しています。

## 部門

### 手づくり郷土賞(一般部門)

### 手づくり郷土賞(大賞部門)

#### 募集対象

地域の魅力を創出している、社会資本及びそれと関わりがある優れた地域活動が一体となった成果

これまでに「手づくり郷土賞」を受賞した社会資本又は社会資本と関わりのある活動を含む成果

#### 選定のポイント

手づくり郷土賞の選考は、以下の視点に着目して行われます。

#### ①社会資本の整備・維持管理・利活用にあたっての創意・工夫

(地域特性を踏まえた整備・維持管理上の工夫、地域資源としての活用・育成等)

#### ②地域活動における創意・工夫、取組の独創性

(新しい発想、住民自ら考え工夫を凝らした取組等)

#### ③地域づくりへの成果及び波及効果

(地域への思いに富んだ取組、地域づくりの枠を越えた効果等)

#### ④今後の活動の継続性・発展性

(住民が長く活動が続けられる仕組み、周囲を広く巻き込む工夫等)

#### ⑤他の参考となるような先進性・先導性

#### ⑥その他(上記以外の特に優れた内容)

#### ①社会資本の整備・維持管理・利活用にあたっての創意・工夫

(地域特性を踏まえた整備・維持管理上の工夫、地域資源としての活用・育成等)

#### ②地域活動における創意・工夫、取組の独創性

(新しい発想、住民自ら考え工夫を凝らした取組等)

#### ③地域づくりへの成果及び波及効果

(地域への思いに富んだ取組、地域づくりの枠を越えた効果等)

#### ④今後の活動の継続性・発展性

(住民が長く活動が続けられる仕組み、周囲を広く巻き込む工夫等)

#### ⑤他の参考となるような先進性・先導性

#### ⑥その他(上記以外の特に優れた内容)

#### ⑦社会資本の地域への定着状況

(地域のシンボルとして広く認識されている、多くの地域住民が日常的に活用等)

#### ⑧活動の継続状況

(規模を広げながら着実に継続している等)

#### ⑨活動の発展状況

(新たな取組を創出している、他地域へ波及している等)

## 応募団体

社会資本を有効活用し地域づくり等に取り組む活動団体が単体、又は社会資本を管理する地方公共団体(都道府県、市区町村)との共同で応募することができます。

## 選定委員会

- 委員長： 西村 幸夫 東京大学 副学長  
大村 哲夫 一般財団法人みなと総合研究財団 理事長  
金安 岩男 慶應義塾大学環境情報学部 教授  
佐々木 葉 早稲田大学理工学術院 教授  
田村 美幸 公共の色彩を考える会 名誉会長  
藤吉 洋一郎 大妻女子大学文学部 教授  
米 美知子 公益社団法人日本写真家協会 写真家  
中島 正弘 国土交通省総合政策局長

※ 詳細については、国土交通大臣表彰「手づくり郷土賞」ホームページをご覧ください。  
(<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/teдукuri/index.html>)

### 災害復旧後の河川敷及び堤防を利用した地域活性化事業(栃木県・那須町)

一級河川余笹川は、清流那珂川の第1次支川であり、「余笹川流域連携ネットワーク」は平成10年の那須災害の復旧に携わった県・町、建設業、測量・コンサルタント業者、地元釣り愛好家グループ・河川愛護会など多種多様な構成メンバーにより、平成15年に設立しています(会員数約150名)。よささふれあい公園を主会場として、毎年川の日記念行事、環境調査、よささウォークのほか、「マスのつかみどり」等イベントを実施しています。「川の日記念行事」は遠路住民の参加もあり、約400名参加、「よささウォーク」は他のイベントとタイアップする工夫により、参加者が年々増加し、H22年度は400名を超え、近年大きく発展しています。



### 野の川の再生「清流よ 永遠なれ」(東京都・江戸川区)

昭和30年代以降、都市化の進展に伴い、一之江境川に生活排水が流れ込み、環境悪化の一途を辿りましたが、「野の川の再生」をテーマに一之江境川親水公園が平成8年に整備されました。「一之江境川親水公園を愛する会」は、流域の町会・自治会18団体が結束し、平成8年に設立しました(会員数17,067世帯)。夏季早朝清掃(参加者1,000名)、自然観察会(参加者150名)、秋の虫歌声鑑賞会(参加者70名)、秋の一斉美化運動などの活動を通じて、親水公園を訪れる多くの住民の自然空間に関する意識向上及びふるさと愛護心の啓発に大いに貢献しています。



### 流域学習・流域防災拠点を目指す鶴見川駒岡河川敷(神奈川県・横浜市)

「鶴見川流域ネットワーク」は、平成3年に鶴見川流域で個々に活動していた13団体が鶴見川とその流域で互いの活動を連携し合うことで鶴見川流域をよくしていこうという思いから設立し、現在44団体が所属しています。鶴見川とその流域の自然の賑わいを再発見し、川を軸に流域規模で安全・安らぎ・自然環境・福祉重視の町づくり・流域文化づくりを目指し流域活動を継続中です。河川敷での月1回の定例活動(清掃、草刈り、水辺体験支援等)や地元地域から河川敷を利用した地域づくりの相談を受けるなど幅広い活動を通じて、流域地域の交流や人的協力関係の強化に繋がるきっかけとなっています。

